

4年間の学びのステップ

1年次 好奇心を刺激し、知識を広げ、設計製図の基本を身につけます。

2年次 作品の制作を通して設計の基礎を習得。

3年次 実習を繰り返して理解を深め、研究室を決定します。

4年次 卒業設計・卒業研究に取り組み、専門性を深めます。

1年次から設計製図の基礎をしっかりと学修。建築では住む人の意識や、集う人の習性なども考慮して、空間に表現することが求められます。設計や製図の実習は、その思考と表現を結びつける作業です。はじめての製図でも戸惑わないよう、じっくり学べるカリキュラムです。

「建築設計」では設計の基礎を駆使し作品を制作。1年で4つ提示される課題に対し、いくつかのサンプルを作成する過程で空間を読む力が身につく、建築の楽しさを実感します。後期には意匠、構造、設備のいずれかを受講。将来に向けた専門的学びがはじまります。

建築に対する理解が深まり、多様な発想が生まれ、課題制作がより楽しく感じられてくる時期です。作品の講評を受けることも増え、プレゼンテーション能力も習得。講義では専門展開科目が増えますが、他分野をバランスよく学ぶことで、総合力を身につけていきます。

1年をかけて卒業設計・卒業研究を実施。快適で安全、かつ持続可能な建築空間、都市空間をめざし、自ら課題を発見し、解決するための手法を考察します。グループでの活動やプレゼンテーションなど、社会人としての活動を見据えた実践的な学びも増えます。


学びのポイント

カリキュラム

科目		1 Semester	2 Semester	3 Semester	4 Semester	5 Semester	6 Semester	7 Semester	8 Semester
教養基礎科目	コミュニケーションスキル	ステップアップ・イングリッシュ1 英語コミュニケーションA1 センテンス・ストラクチャ1 英語コミュニケーションB1 英語コンプリヘンションC1 英語コミュニケーションC1 日本語表現法	ステップアップ・イングリッシュ2 英語コミュニケーションA2 センテンス・ストラクチャ2 英語コミュニケーションB2 英語コンプリヘンションC2 英語コミュニケーションC2	英語コンプリヘンションA1 アドバンスト・コミュニケーションA1 アドバンスト・コンプリヘンションB1 アドバンスト・コミュニケーションB1 アドバンスト・コンプリヘンションC1 アドバンスト・コミュニケーションC1	英語コンプリヘンションA2 アドバンスト・コミュニケーションA2 アドバンスト・コンプリヘンションB2 アドバンスト・コミュニケーションB2 アドバンスト・コンプリヘンションC2 アドバンスト・コミュニケーションC2				
	情報リテラシー	情報処理							
	人間力養成	スポーツ科学 初年次教育 キャリアデザイン1	キャリアデザイン2			キャリアデザイン3			
	国際理解	異文化理解 言語と文化1 言語と文化2				グローバル時代の法 国際社会論			
教養共通科目	人間・社会・自然の理解	哲学 倫理学 文学と芸術 歴史と人間 心理学 身体と健康の科学 憲法と社会 現代社会論 科学技術史 環境科学概論				政治と社会 経済学 生命科学 地球科学 物理の世界と先端技術 物質科学			
	総合				課題探究セミナー 総合学際科目				
教養特別科目		ソーシャルアクティブラーニング 国際インターン 国内インターン ボランティア				イングリッシュアクティブラーニング1	イングリッシュアクティブラーニング2	総合科学特論	
						イングリッシュアクティブラーニング3	スポーツアクティブラーニング		
専門科目	専門基礎科目	創造工学基礎演習1 世界の文化と建築 建築のための人文社会 物理学基礎 化学基礎 数学基礎	創造工学基礎演習2 微分積分 基礎統計学 線形代数 物理学実験 化学実験					建築のための英語	
	専門基幹科目		静定梁・静定トラスの力学及び力学演習 建築構造材料	建築設計1 日本建築史 温熱環境学 静定構造の力学及び力学演習 建築の構造1	西洋建築史 空気環境学 光環境学 建築の構造2	建築音響学			
	専門展開科目				建築設計2 建築計画1 不静定構造の力学	建築設計3 建築計画2 現代建築論 建築設備計画 地盤工学 鉄骨構造 建築仕上げ材料 建築生産	建築設計4 建築デザイン論 建築設備 鉄筋コンクリート構造 建築基礎構造 構造・材料実験 建築法規	建築設計5 建築耐震構造 ゼミナール1	ゼミナール2 卒業研究


(赤字：必修科目 黒文字：選択科目)

研究室 Pick up!




良い建築を見る、人々の生活を見る、さまざまな視点から「建築」を考えます。

いま、建築の世界は大きく変わろうとしています。従来の外観の美しさを追求するだけではなく、人々の生活や社会との関わりを考慮することがますます重要になっています。そこで大事になるのは、外の世界に目を向けること。私たちの研究室では、図面をひいて模型を作る「設計」も行います。そのためには文献研究を通して建築の理論・歴史の理解を深めることはもちろん、街へ出て良い建築やその建築物に関わる人々の生活を観察することが必要です。ソウル・台北などへのゼミ旅行や、海外の大学とのワークショップなど国際交流にも力を入れ、手先を使ったものづくりを楽しむと同時に、広い視野を身につけます。




建築史、建築理論、建築設計
今村 創平准教授



液状化を防ぎ、人々の暮らしに安心を提供します。

東日本大震災で住宅に大きな被害をもたらした液状化の原因は、地震時の地盤の変形により地下水の水圧が高まることにあります。その原因を絶つ方法として、圧力のあがった水を地上に逃がすドレーン（排水路）を地盤内に打設する工法があります。このドレーンに、杭基礎のように支持力の機能を持たせる研究を進めています。住宅の液状化対策には、省コスト化が重要な課題です。支持力と排水の2つの機能を持たせることで、省コスト化が図れる可能性があります。基礎と地盤は、あらゆる建築を支えるもので、安心して暮らせる上で重要な要素です。実用化に近づけるために、研究室のメンバーで実験に励んでいます。



地盤工学、基礎構造、耐震技術、液状化
鈴木 比呂子准教授